

出土した土器と被葬者

礫層の上からは、底部に穴を開けた壺、高杯、手焙形土器などの土師器がまとまって出土しました。埋葬にともなう祭祀などの目的で使われた可能性が考えられます。これらの土器は、東海地方の様式と共通する特徴がみられ、地元の土器が含まれないことから、被葬者は同地方と深いかわりがあった人物と推定されます。

また、古墳の西方1.2kmにある出川西遺跡（南松本駅周辺）からは、東海地方の特徴をもつ土器が多数出土していることから、被葬者が拠点とした集落のひとつであったと考えられます。



弘法山古墳から出土した土器



出川西遺跡から出土した土器

中山古墳群

弘法山古墳の周辺には、4世紀から8世紀までの長い間、古墳がつくられていました。かつて棺護山にあった中山36号古墳は、4世紀の方墳で、弘法山古墳と同様の銅鏡や東海地方の特徴をもつ土器がみつかりました。弘法山古墳に続く同じ古墳時代前期の古墳になります。



中山36号古墳から出土した壺と銅鏡

文化財課SNS
まつもの文化財



Facebook



Instagram

弘法山古墳へのアクセス

所在地

〒390-0825
松本市並柳2丁目1000番ほか

交通案内

松本ICから車で25分
JR松本駅からタクシーで15分
JR松本駅からバスで15分
(並柳団地線：『弘法山入口』下車)
⇒徒歩10分

お願い

- ①たばこや火気の取扱いはご遠慮ください。
- ②ごみは捨てずに持ち帰りましょう。
- ③遺構保護のため、園路以外の斜面には立ち入らないでください。



出土品の見学は 松本市立考古博物館へ

所在地

〒390-0823
松本市中山3738-1
TEL 0263-86-4710

交通案内

塩尻北ICから車で20分
弘法山古墳から3km（車で5分、徒歩で40～50分）

利用案内

開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
休館日：3月～11月 火曜日（火曜日が祝日の場合は翌日）
12月～2月 平日、年末年始
観覧料：無料



案内地図



お問い合わせ

松本市 文化観光部 文化財課
TEL 0263-34-3292
(大手事務所)
0263-85-7064
(中山事務所)

貴重な文化財である古墳を大切に
美しいすがたで
未来へ伝えていきましょう



史跡

弘法山古墳



松本市

全国的に注目される 前方後方墳 弘法山古墳

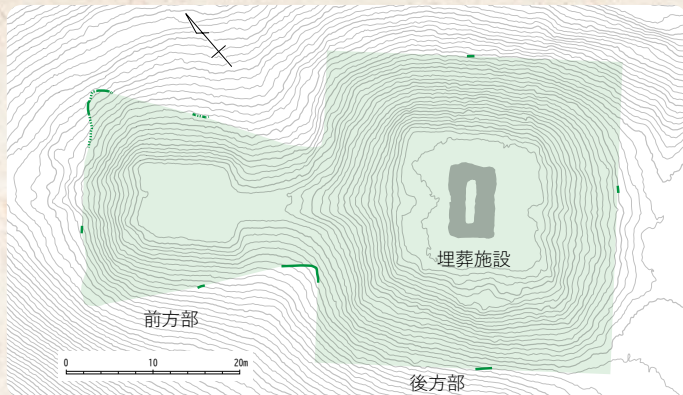


弘法山古墳は、松本市東部にある中山丘陵の北端部、標高652mの尾根上に立地します。昭和49年（1974）に発掘調査を行った結果、3世紀末ころにつくられた東日本最古級の前方後方墳であることがわかりました。古墳の立地や出土品などから、当時この地域を治めていた王の墓であったと考えられます。シナノには、4世紀以降に善光寺平を中心に前方後円墳がつくられるようになりますが、それに先行する前方後方墳である弘法山古墳は、シナノの古墳時代の始まりにおける政治や地域の情勢を知る上で貴重な存在です。

弘法山古墳は、シナノの古墳文化の幕開けを語る貴重な古墳として、昭和51年（1976）に国の史跡に指定され、さらに平成5年（1993）には出土品が県宝に指定されました。昭和57年（1982）には史跡公園として整備が行われ、現在は桜の名所としても親しまれています。

近年、古墳時代の研究において、弘法山古墳には再び注目が集まっていますが、まだ分からないことが多くあり、史跡としての保存活用上の課題となっています。そのため、松本市では、令和元年度から史跡弘法山古墳の再整備事業に着手し、令和2～5年度には、古墳の形や規模などを確認するための発掘調査を実施しました。

墳丘



墳形：前方後方墳
 時期：古墳時代前期（3世紀末ころ）
 全長：約61.5m
 後方部：長さ34.1m、幅36m、高さ6.2m以上
 前方部：長さ27.4m、くびれ部の幅13.7m、前端的幅24.9m、高さ1.9m以上

埋葬施設

埋葬施設は、後方部の中央に、古墳主軸とほぼ直交する向きにつくられました。その形は特徴的な竪穴式石室状の礫櫛で、長さ5.5m、幅1.32m、深さ0.93mの大きさがあります。礫櫛には河原石が多く用いられていて、これらは松本平に集まる複数の河川から運ばれたと考えられます。礫櫛内は固く締まった黒土で満たされていて、棺や天井石は確認されていません。



竪穴式石室状の礫櫛（昭和49年発掘調査）

古墳の表面の様子

前方部と後方部が結合するくびれ部では、墳丘の表面が5～25cmほどの角ばった石や丸い河原石で覆われている部分を確認されました。また、くびれ部の外側には平らな地面をつくり出し、山石や河原石を隙間なく敷いていました。



くびれ部の様子

副葬品

銅鏡：上方作系浮彫式獸帯鏡1面
 装身具：ガラス小玉（首飾り・手首飾り）738点
 武器：鉄剣または鉄槍3点、
 銅鏃1点、鉄鏃24点
 工具：鉄斧1点、ヤリガンナ1点

副葬品の配置から、被葬者は北東に頭を向けて埋葬されたと考えられます。また、腰のあたりからは水銀朱もみつかりました。



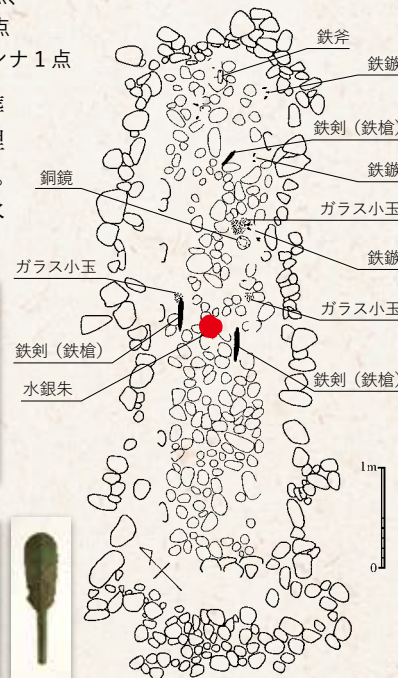
銅鏡とガラス小玉



鉄器



銅鏃



副葬品の配置

墳丘築造と盛土

古墳は、元の地形を整えて、古墳の外形ラインを斜めに削り出してから、盛土を行っています。盛土は、古墳全体に行われましたが、特に後方部に厚く盛り、高いところでは、元の地形から4m近くに達しています。また、砕いた石を混ぜた土を突き固めながら何層にも積み重ねるなど、非常に手の込んだつくりがなされています。



墳裾部の様子

